

平成 22 年 4 月 30 日現在

研究種目：基盤研究 B

研究期間：2007～2009

課題番号：19330105

研究課題名（和文） 20 世紀アジアの社会変動と高齢者のライフコース  
家族イベントの聞き取りを通して

研究課題名（英文） Social Change in 20 Century 's Asia and Life course of the Elderly:

研究代表者 山根 真理 (YAMANE MARI)

愛知教育大学・教育学部・教授

研究者番号：20242894

## 研究成果の概要（和文）:

本研究の目的は、東アジア・東南アジア諸地域における高齢者のライフコースを、家族イベントに着目して明らかにし、それを 20 世紀の社会変動とのかかわりで考察することによって、20 世紀のアジア史を理解することである。家族イベントのなかでも特に、妊娠・出産、家事、育児、介護など、「女性の経験」を重視して調査研究を行う。調査方法は質問紙調査およびインタビュー調査である。

4 カ国、5 地域で同一の質問紙を用いたライフコース調査を実施した。対象者は 1920-40 年代生まれの人々である。中国（大連）223 票、韓国（ソウル、テグ）197 票、フィリピン（州都ラワック市他）75 票、日本（名古屋）81 票のデータを収集した。第一次分析によって、各地域におけるライフコースと社会変動に関する考察を行った。

インタビュー調査は、高齢者を対象に 20 世紀の歴史と人生の重なりを焦点にするものと、グローバル化がすすむ現代社会における国際移動とライフコースの関連を焦点にしたものに大別できる。インテンシブ・インタビューのデータの分析によって、20 世紀アジアにおける西欧近代的家族・ジェンダー規範の浸透と社会階層の関連や、21 世紀の現在におけるトランス・ナショナル化するライフコースの諸相が明らかになった。

上記のような研究知見に加えて、中国、韓国の共同研究者を招聘しての国際セミナーの開催など、研究成果の還元という点でも社会的な貢献を果たした。

## 研究成果の概要（英文）:

The purpose of this study is to understand Asian history in 20<sup>th</sup> century by exploring life course of the elderly in East and Southeast Asia focusing on family event and considering it with reference to social change in 20<sup>th</sup> century. We focused on 'women's experiences such as pregnancy, childbirth, housework and care for the elderly. There are two research methods; questionnaire survey and intensive interviews.

We hold questionnaire survey on life course in 5 areas, 4 countries. The objects are people who were born during 1920<sup>th</sup> to 1940<sup>th</sup>. We corrected 223 cases in China (Dalian), 197 cases in Korea (Seoul and Daegu), 75 cases in Philippines (Laoag), 81 cases in Japan (Nagoya). We published some findings on life course and social change by analyzing the data in each society.

There are two focuses of the intensive interviews; one is on life course of the elderly and social change in 20<sup>th</sup> century's Asia, the other is on life course and transnational migration in contemporary Asia under rapid globalization. We published some findings about the themes such as how westernized modern family-gender norms had penetrated into elite women during colonial era, how transnational life course is emerging in contemporary Asian societies.

In addition to these academic publications, we made social contribution by inviting co-researchers from China and Korea and holding international seminar for the general public.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	4,700,000	1,410,000	6,110,000
2008年度	5,300,000	1,590,000	6,890,000
2009年度	4,600,000	1,380,000	5,980,000
年度			
年度			
総計	14,600,000	4,380,000	18,980,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：ライフコース・アジア社会史・家族イベント

1. 研究開始当初の背景

本研究はアジア諸地域における初の本格的な「個人史からみた歴史」への取り組みである。また、女性、少数民族など「周縁」に焦点をあてた研究という点で、日本のライフコース研究においても先駆的な研究ということがいえる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、東アジア・東南アジア諸地域における高齢者のライフコースを、特に家族イベントに着目して明らかにし、それを20世紀の社会変動とのかかわりで考察することによって、20世紀のアジア史を個人・家族・社会の重なり合いにおいて理解することである。家族イベントのなかでも特に、妊娠・出産、家事、育児、介護など、文書記録にとどめることが困難な「女性の経験」を重視して調査研究を行う。

3. 研究の方法

研究の方法は質問紙調査およびインタビュー調査である。中国（大連）、韓国（ソウル、テグ）、フィリピン（州都 ラワッグ市）、日本（名古屋）において、1920年代～40年代生まれの高齢者を対象に、調査員が面接する方法でライフコース調査を実施した。

あわせて中国（新疆ウイグル地区、大連）、タイ・ミャンマー、韓国（ソウルおよびテグ）、フィリピン、日本（名古屋、神戸）において、各研究者の関心に応じたインタビュー・インタビュー調査を実施した。

4. 研究成果

4カ国、5地域でほぼ同一の質問紙を用いた調査を実施し、中国 223 票、韓国 197 票、フィリピン 75 票、日本 81 票のデータを収集した。個別地域の第一次分析から得られた主な知見は、以下の事柄である。1) ソウルの男性データから、韓国男性のライフコースは家父長制の裏づけとなる職業的、経済的基盤を欠いている。2) テグデータの、人生に影響を与えた出来事の分析によれば、男女ともに朝鮮戦争と IMF 経済危機をあげた人が多いが、女性は朝鮮戦争を、男性は IMF を多くあげる傾向がある。3) 大連データの分析結果から、大連の対象者の生活は比較的安定しており生活満足度は高いこと、高齢者の生活援助に関して子ども、特に娘からのサポートが機能していることが明らかになった。

各地域におけるインテンシブなインタビューは、質問紙調査を補う性格をもつもの、各研究者の固有な関心にもとづくものがある。大きくみて、高齢者を対象に20世紀の歴史と人生の重なりを焦点にするものと、グローバル化がすすむ現代社会における国際移動とライフコースの関連を焦点にしたものに大別できる。インテンシブ・インタビューのデータを用いて学会等で公表された、主な知見は以下の通りである。1) フィリピンのエリート層高齢女性のライフコースにおいて「女性のいるべき場所は家庭」という西洋（スペイン、アメリカ）近代の規範が影響を与え、もともとの価値観との拮抗がみられる。2) 現代日本においては、死と結婚とい

う二つのライフイベントの語りの中に、女性の主体性の変化、高まりが表れている。3) シンガポール、ミャンマー、タイ、インドネシア等で実施した家事労働者へのインタビュー調査を通して、アジア家族の中流化とアジア型家族福祉の展開の中で、家庭内で働く家事、介護労働者として国境を越えて働く「トランスナショナル化するライフコース」の諸相が明らかになった。

上記のような研究知見に加えて、最終年次は中国、韓国の共同研究者を招聘しての学会報告や一般市民を対象にした国際セミナーの開催など、研究ネットワークと研究成果の還元という点でも社会的な貢献をした。

得られたデータの分析はまだ断片的なものにとどまっているが、今後、さらに分析をすすめていく。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 6 件)

Kayoko Ueno, Strategies of Resistance among Filipina and Indonesian Domestic Workers in Singapore, *The Asian and Pacific Migration Journal*, Volume 18(4), pp. 497 ~ 517, 2009

上野 加代子「家庭内ケア労働者の国際移動」『家族社会学研究』21 巻 2 号, 195-200 頁, 2009 年

落合 恵美子「アジアにおけるケアネットワークの再編成 福祉ミックス論との接合」『家族研究年報』33 巻 3-20 頁 2008 年

[学会発表](計 11 件)

宮坂 靖子・山根 真理「中国・大連における高齢者のライフコース・インタビュー調査による事例研究」第 29 回家族関係学セミナー 金城学院大学, 2009 年 10 月

中筋 由紀子「現代日本における女性のライフコースの語りの変容」日本家族社会学会第 19 回大会 国際セッション「アジアのライフコースと社会変動 共同プロジェクトの成果から」奈良女子大

学, 2009 年 9 月

長坂 格「フィリピンのエリート女性の家族と結婚」日本家族社会学会第 19 回大会 国際セッション「アジアのライフコースと社会変動 共同プロジェクトの成果から」奈良女子大学, 2009 年 9 月

上野 加代子「トランスナショナル化するライフコース アジアの外国人家事労働者の調査から」日本社会学会第 82 回大会, 立教大学, 2009 年 11 月

山根 真理・洪 上旭「韓国における高齢者のライフコースと社会変動 2004 年キョンサン市インタビュー調査データの再分析を通して」第 28 回家族関係学セミナー, 大妻女子大学 2008 年 10 月

山根 真理「現代韓国の子育てと母性 - 日本との比較視点において」東海ジェンダー研究所主催『国際シンポジウム 東アジアにおける現代化と女性』名古屋マリオットアソシアホテル 2008 年 1 月

[図書](計 8 件)

長坂 格『国境を越えるフィリピン村人の民族誌：トランスナショナリズムの人類学』明石書店, 2009

Emiko Ochiai and Barbara Molony eds., *Asia's New Mothers: Crafting Gender Roles and Childcare Networks in East and Southeast Asian Societies*, 2008

首藤 明和・落合 恵美子・小林 一穂編著『分岐する現代中国家族：個人と家族の再編成』明石書店, 2007 年

[産業財産権]

出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：

発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

山根 真理 (YAMANE MARI)  
愛知教育大学・教育学部・教授  
研究者番号：20242894

### (2) 研究分担者

上野 加代子 (UENO KAYOKO)  
徳島大学・大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス  
研究部  
研究者番号：50213377

落合 恵美子 (OCHIAI EMIKO)  
京都大学・文学研究科  
研究者番号：90194571

中筋 由紀子 (NAKASUJI YUKIKO)  
愛知教育大学・教育学部；准教授  
研究者番号：60303682

長坂 格 (NAGASAKA ITARU)  
広島大学・大学院・総合科学研究科  
研究者番号：60314449

藤田 道代 (FUJITA MICHIO)  
大手前大学・現代社会学科・教授  
研究者番号：00219023

宮坂 靖子 (MIYASAKA YASUKO)  
奈良大学・社会学部・教授  
研究者番号：30252828

山本 かほり (YAMAMOTO KAORI)  
愛知県立大学・教育福祉学部  
研究者番号：30295571

### (3) 連携研究者 なし

( )

研究者番号：